

NICE SMILE

2015
秋
VOL.63

地方独立行政法人 りんくう総合医療センター ● 院外・院内広報

発行・責任者：広報・年報編集委員長 森朝 紀文 / 〒598-8577 大阪府泉佐野市りんくう往来北2番地の23 TEL072-469-3111(代) FAX072-469-7929
http://www.rgmc.izumisano.osaka.jp/



「コスモスの村」Photo by 飯田 正明氏 (治験審査委員)



ご挨拶

りんくう総合医療センター病院長
山下 静也

この度、2015年8月1日より伊豆蔵正明先生の後任として病院長を拝命致しました山下静也でございます。小生は大阪大学大学院医学系研究科総合地域医療学寄附講座を主宰して、泉州南部地域で不足する医師の派遣や診療・研究のサポートにも関わってまいりましたので、その経験を活かして泉佐野泉南医師会を中心とする多くの医療関係の方々と地域住民の方々とも協調して、当センターを飛躍的に発展させたいと思っております。

当院は特定感染症指定病院、災害拠点病院、大阪府がん診療拠点病院、地域医療支援病院、救命救急センターなど、様々な医療機能を有した高度急性期病院です。病床数は救命救急病床30床、感染症病床10床を含め、総病床数388床を有しております。また、市立貝塚病院との泉州広域母子医療センターの共同運営や、泉州南部における病病連携・病診連携をより迅速にする新たな診療情報連携システム「なすびんネット」を導入するなど、地域医療の連携を積極的に進めてまいりました。さらには、関西国際空港の対岸という土地柄、国際診療でも先駆的取り組みを行ってまいりました。さらに、近年海外、特にアジアからの旅行者数が激増し、国際的な診療が求められているだけではなく、重症急性呼吸器症候群(SARS)、新型

インフルエンザ、エボラ出血熱、最近では中東呼吸器症候群(MERS)等の新興感染症のアウトブレイクに備えて、西日本唯一の特定感染症指定医療機関としての重要な役割も求められています。昨年度には、『泉州南部卒後臨床シミュレーションセンター』が新設され、臨床技能の習得とチーム医療の充実を図る教育プログラムを開発してまいりました。この斬新な試みによって、若手医師の人氣も上昇し、研修希望者がかなり増加している点は喜ばしい限りで、究極的にはこの地域の医療水準の向上に大きく貢献できるのではないかと考えております。

一方、医療機能の現状と今後の方向に係るデータを収集するため、2014年10月から「病床機能報告制度」が開始され、各病院がそれぞれ目指す方向を都道府県に報告し、その基礎データを元に各地域で協議の場が設けられ、従来以上に地域完結型医療の実践が求められています。当地域は以前から病診連携・病病連携が緊密に行われてきた地域であると認識していますが、当院では消化器内科や眼科等の診療科の医師不足により、全ての病態に対応できるわけではないという現実的課題があります。今後とも高度で良質な医療を地域に提供できるよう、微力ながら精一杯努力して参りますので、今後とも何卒宜しくお願い申し上げます。

CONTENTS

表紙写真 / 「ご挨拶」病院長 山下静也	1	部署紹介「中央手術室」「栄養管理科」	4
理事長メッセージ / りんくう地域医療懇話会 / 病院長受賞	2	連携施設紹介「市川クリニック」「藤澤歯科医院」	5
一次救命処置(BLS)研修 / ふれあい看護	3	泉州がんフォーラム / 「コウノドリ」ドラマ化 / 南谷医師TV取材 / 他	6

～理事長メッセージ～

平成27年度の展望

—この10月1日からの新しい試み—



消費税が8%になってから1年半が経過しました。当初の計画では今年10月1日から10%に増税される計画でしたが、この増税は1年半先送りされることになり、現在、軽減税率についての議論が続いています。

先送りされずに実際にこの10月から始まったものにマイナンバー制度があり、医療関連のものとしては事故調、看護師特定行為があります。これら3件については10月からすぐに変化が見られるものではないものの、長年にわたる検討と議論の末に開始されたものであり、長期的には重要案件であるという共通点があるように思います。それにもかかわらず、何となく見切り発車的な感じが否めないとすることも共通しているような気がします。

“*To error is human*”という格言と共に、2000年以降、本邦でも本格的に医療安全への意識が高まりました。一方で訴訟の増加に対して、専門医療機関の第三者機関による調査制度のモデル事業が2005年から開始されました。しかしながら、この調査システムは、直接は事故の再発防止に結び付きにくいことな

どから紆余曲折を経て、頓挫した経緯があります。今回の事故調は第6次医療法改正の中で策定された制度で、予期せぬ死亡例に対して医療機関自体が調査主体となり、医療事故の再発防止により、医療の安全を確保することを目的とした制度、とされています。まだ課題が残されていますが、是非とも事故防止と医療への信頼確保に繋がる制度の第一歩にしたいものです。

看護師特定行為についても、これまで10余年にわたり各界で議論されてきた経緯があり、研修制度がこの10月から始まるとはいえ、すぐにはイメージできない状況であることは否定できません。しかし、この件は、長期的展望としては、これまで助走段階であったチーム医療の大幅な促進につながるポテンシャルを有する重要な企画と期待されています。

これらの医療の転換期に、皆様方との連携と協働で対応できれば幸いです。今後とも、皆様方のご理解とご協力をお願い申し上げます。

地方独立行政法人
りんくう総合医療センター

八木原

俊克



山下病院長が 最優秀賞を受賞いたしました

8月29日～9月2日に英国ロンドンで開催されました欧州心臓病学会(European Society of Cardiology)にて、山下病院長がポスタープレゼンテーションの最優秀賞を受賞いたしました。この研究では日本で開発された新しいフィブラート系の脂質異常症治療薬であるK-877が、中性脂肪を低下させるだけでなく、善玉であるHDLコレステロールを上昇させることが報告されました。さらにはK-877によって増加した小さなHDL粒子は細胞からのコレステロールの引き抜き能力が高く、動脈硬化を抑制する極めて善玉のHDLであることが明らかにされました。この演題はModerated Posterとして一般演題から選ばれ、さらにはポスタープレゼンテーションでの発表、質疑応答から最優秀賞

として選ばれました。



第4回 りんくう地域医療懇話会



平成27年9月10日(木)、スターゲイトホテル関西エアポートにて、『第4回 りんくう地域医療懇話会』を開催いたしました。この会は、医師会、歯科医師会、薬剤師会を中心とした医療従事者の方々や行政、消防関係の方々など地域の関係者で顔を合わせ、連携を深めていく目的で、毎年開催しております。

今回は、本年8月に山下静也病院長が就任したことから、関係者へのご紹介と交流を主眼において開催いたしました。

総勢221名の方々にご参加いただき、盛会にて終わることができました。誠にありがとうございました。今後とも地域連携の構築にご協力よろしくお願い申し上げます。



一次救命処置(BLS)研修を 実施しました

急性期ケア推進室 救急看護認定看護師 山田友子
医療安全管理室 河野純子
教育研修委員会 松岡哲也

♥一次救命処置(以下BLS)とは、突然の心停止に陥った患者さんを救命する為に、まず最初に行う救命処置のことです。急変時には、心肺蘇生が必要か否かの判断、緊急コール、胸骨圧迫と人工呼吸、AEDを用いた除細動などのBLSでの初期対応がとて重要になります。

♥りんくう総合医療センターでは、救命処置が必要な場面で、職員誰もが迅速に初期対応が出来ることを目指しています。その一環として、医療従事者だけではなく、看護補助者・事務職員なども含め、全職員が二年に一度はこの研修を受講し、BLSの知識と技術を維持しています。今年度は、職員約200名が受講しました。受講者だけでなく、指導者も当センターの職員で構成しており、BLSを指導することで共に学ぶ体制を構築しています。またこのような研修だけではなく、リハビリテーション科、放射線科など各セクションで急変があった場合にどのように対応すればよいか、セクションの個別性に応じた急変時対応の学習会を開催しています。個別性を取り入れることによって、実際の現場でより迅速な行動が無理なく行える様になると考えています。



♥今年2月には、りんくう教育研修棟・泉州南部卒後臨床シミュレーションセンター(サザンウィズ)が開設され、シミュレーターを用いての技能習得や、チーム医療の充実を図るための研修が可能になりました。今回サザンウィズでの開催にあたり、近隣の病院職員20名に受講して頂きました。

♥今後このような活動を通じて、泉州南部地域の医療従事者が共に学び、病病・病診連携を強化するとともに、地域への救命処置の普及に貢献できるよう活動していきます。

♥また職員一人ひとりが、自分の役割を認識し、主体的に行動できるように支援することで、良質で、適切な医療・看護を提供し、患者様が安心して通院や療養できる組織作りに尽力したいと思います。



ふれあい看護

大阪府立日根野高校20名のみなさんに看護師職業体験を行いました

大阪府立日根野高校では、今年度平成27年より、1年生では基礎学力を養成し、2年生から進路希望に応じた3つの専門コースと従来型の文系・理系の5つの選択肢の中から学ぶという教育方法を取っています。3つの専門コースの中の1つに「看護メディカル」というコースがあり、医療関係進学を目指す高校生が学ぶことのできるシステムです。当院ではこのシステムを支援するために、1年生の職業体験を受け入れています。

副看護局長 兼 教育責任者 井出 由紀子



中央手術室

① 部署紹介

中央手術室看護師長 藤原 妙子

中央手術室では、外科、整形外科、形成外科、脳神経外科、呼吸器外科、心臓血管外科、泌尿器科、産婦人科、耳鼻咽喉科、口腔外科、腎臓内科が、年間約3400件の手術を実施しています。24時間体制で緊急手術対応を行っている、緊急手術は総手術件数の10〜15%を占めています。

平成27年6月より手術室看護体制を2交替制とし、時間外に及ぶ長時間手術や超緊急手術にも即時対応のできる体制をスタートすることができました。手術室看護師が常時在院することで、手術対応だけでなく休日や夜間の他部署応援にも出向くため、病院全体にとってもメリットが高かったと言えます。また、日々進化する外科的治療法や手術器械への対応をするべく、4つの専門チーム制(人工関節・腹腔鏡・心臓血管外科・脳神経外科)を導入し、術者がストレス無く手術が行えるよう、手術看護の質向上を図っています。

手術を受けられる患者様には、安心して手術に望めるよう術前訪問を実施しています。手術は患者様にとって人生において大きなイベントの一つですが、ご家族にとっても同様です。手術中



中央手術部スタッフ

のご家族は待機されている間、「手術はうまくいっているだろうか?」「何時に終わるんだろうか?」など不安を抱えていらっしゃると思います。手術室看護師は、待機されているご家族に手術中の手術の進行状況や患者様の状態についてお話しし、可能な限り不安が少なくなるように取り組んでいます。

中央手術室は多くの部門と連携が必要な場所です。患者様に安全な手術環境や手術看護を提供するため、良いコミュニケーション、リレーションシップを築いていきたいと思えます。今後ともよろしくお願いいたします。

栄養管理科

② 部署紹介

栄養管理科主査 住井 諭美

栄養管理科は管理栄養士5名(うち1名は栄養サポートチーム専従)で入院・外来の栄養管理業務を行っています。栄養管理業務とは外来は栄養指導、入院は患者さんの栄養管理計画を立て、食べられない患者さんの食事や口から食べられない場合の経管での栄養について随時対応と栄養指導を行っています。栄養指導は乳幼児二次健診の栄養相談から心臓病や糖尿病、腎臓病、消化器手術後の食事、透析予防指導など多種に対応しています。当院は外国人患者受け入れ医療機関でもあり、医療通訳を交えた栄養指導や食事対応(宗教上の理由など)を行っています。

また地域医療機関からも栄養指導を受けていただけるように毎週月曜日午後地域栄養指導を実施しています。地域医療連携室をとおして予約受付を行っており、継続の栄養指導も実施しています。栄養サポートチーム(NST)では専任の医師、看護師、薬剤師、言語聴覚士、専従の栄養士で週1回のカンファレンス、回診を行い栄養専門チームとして活動しています。



栄養管理科スタッフ

資格取得内容としては、糖尿病療養指導士(CDEJ)2名、栄養サポートチーム専門療法士2名(平成27年10月現在)。今年の4月より入院患者給食の新しい取り組みとして「調理師おすすめメニュー」、や産科病棟ではドリンクサービス(フレイバーティの提供)を開始し入院患者さんに喜んでいただけるサービスを栄養士、調理師で創意工夫してがんばっています。今後ともどうぞよろしくお願ひ致します。



りんくう医療ネットワーク 連携施設の先生のご紹介

連携施設の先生をご紹介しますコーナーです。当院では、「かかりつけ医」と連携し、地域ぐるみで質の高い医療サービスを推進しています。

市川クリニック



院長 市川 利洋

【所在地】大阪府泉南郡岬町淡輪3764-250
【TEL】072-492-1470 【FAX】072-491-2131
【診療科目】内科、外科
【受付時間】(午前)9:00~12:00 (午後)17:00~19:30

	月	火	水	木	金	土	日
午前	○	○	○	×	○	○	×
午後	○	○	○	×	○	×	×

平成4年3月岬町で開業しました。私は元々消化器外科でしたが、地方の市民病院や和泉市、堺の私立病院で、色々な救急患者を診ていた経験があり、色々な疾患を診てきました。専門外の患者を診察するのは大変でしたが、この経験が開業には役立ちました。開業当初から往診も行い、救急患者も診ていましたが、当時は救急患者を受け入れる病院の態勢が整っておらず、転送先に随分苦労しました。何年か経つ頃には社会情勢も変化し、比較的簡単に受け入れて頂けるようになり、りんくう総合医療センターにも随分助けていただきました。

当院では高血圧、糖尿病、高脂血症、慢性閉塞性肺疾患等の各種の内科疾患や胃腸疾患、肝疾患等の患者さんを診ています。C型肝炎については、インターフェロン等新しい

治療や公衆衛生の向上により患者さんは激減し、医療の進歩と社会の変化に驚くばかりです。内視鏡検査については、経鼻内視鏡を導入し既に10年が経ちました。機種もどんどん改善され、スクリーニングであれば経口内視鏡と比べても遜色無い様になっています。

もともと外科をやっていたので、簡単な外来手術も行っていますが、やはり年のせい少し大きな腫瘍などは病院に行っていた様になりました。

りんくう総合医療センターには基幹病院としてのさらなるご発展を祈念しています。



藤澤歯科医院



院長 藤澤 長登司

【所在地】大阪府泉南市樽井5丁目39-12 【診療科目】歯科
【TEL・FAX】072-482-3357
【受付時間】(午前)9:30~11:30 (午後)火・水・金 15:30~18:30
* 午後は、曜日により時間が異なります。

	月	火	水	木	金	土	日
午前	○	○	○	×	○	○	×
午後*	○	○	○	×	○	○	×

当院は1982年3月より泉南市樽井(南海樽井駅から尾崎駅方面徒歩3分)の地で開院させて頂き、すでに33年が経過いたしました。

当時は北に100メートル行けばそこはもう海という場所でしたが、現在では海まで300メートルくらいになりました。

開業当初から矯正歯科以外の全般にわたり地域密着型の歯科医療に従事してまいりました。

1995年に、日本咬合学会に入会し、咀嚼器官である口腔の形態およびその動きと位置が、ヒトの姿勢・整体そして内臓臓器へも多大なる影響を及ぼすことがわかり、以後の診療への大きな転換期となりました。よって、得意分野は「くいしばり等の咬合不全」や「形態異常を伴わない顎関節症」でございます。

最近では、訪問歯科診療の方にも力を入れるようになり(診療時間が変則的なのはそのためです)、診療室内での「かかりつけ歯科医」としての役目のみならず、在宅や介護

福祉施設での患者さんの口腔機能を維持・向上させることにより、その患者さんの生活の質(Quality Of Life)の向上を図ろうと努力しております。

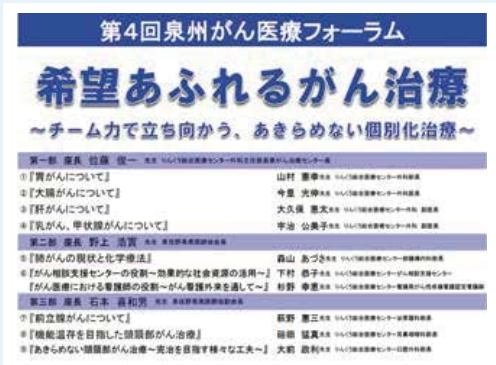
そのためには、地域の様々な職種の皆様方とより一層綿密なる連携を取りながら訪問歯科診療に取り組んでいかなければならないと考えております。

最後に基幹病院であるりんくう総合医療センターと連携をとり、今後は癌等の周術期の患者さんの口腔機能管理にも努めていきたいと思いますので、ご指導の程、よろしくお願い致します。



平成27年
9月6日

第4回 泉州がん医療フォーラムを開催しました



泉州地域ではNPO法人泉州がん医療ネットワークが中心となり、市民を対象とした医療フォーラムを開催し、市民に対するがんの啓発活動を行っています。今回はその第4回目で、当院が幹事病院を担当しました。



(左後段から) 位藤先生、碓田先生、山村先生、萩野先生、大前先生、大久保先生、下村先生、今里先生
(左前段から) 森山先生、宇治先生、野上先生、石本先生、杉野先生

第4回目のテーマは「希望あふれるがん治療～チーム力で立ち向かう、あきらめない個別化治療～」としました。当院から10人の講師(医師、看護師、MSW)が講演をする形式で、「がん」と診断されてもあきらめずに「がん」に立ち向かっていただきたいというメッセージを発信しました。今回は249名もの方にご参加いただき盛況に終わることができました。



国際診療科部長南谷かおり医師が テレビ番組の取材を受けました

近年、訪日外国人数が年々増加し、病院での「医療通訳」の重要性が増してきております。その中で、医療通訳サービスを5言語で提供している当院は日本でも珍しく、外国人患者受け入れ可能な病院として認証されています。今回、医療通訳の研修を担当しながら、「医師」と「医療通訳」の仕事の同時に行なう、国際診療科 南谷かおり医師がTV取材を受け、外国人医療の現状をお伝えいたしました。



◆番組名:ゆうがたLIVEワッダー「戦う女性医療通訳士」(関西テレビ)
◆放送日:2015年9月9日(水) (17:45～18:00)

人気漫画「コウノドリ」 ドラマ化!

荻田医師モデル



©コウノドリ / 鈴木木コウ 講談社

産婦人科部長 荻田医師がモデルとなっている、人気漫画「コウノドリ」が、10月16日よりドラマ化されました。主人公の鴻鳥サクラは、荻田医師と同じく産婦人科医でジャズピアニストでもあります。



産婦人科部長 荻田医師

「コウノドリ」は産婦人科を舞台とし、妊娠・出産をリアルに描いたストーリーです。また、周産期医療に掛ける医師の思いや、命の大切さを感じることができるドラマとなっています。

・10月16日(金)夜10:00～スタート
・TBS系列
・主演:綾野剛
・原作者:鈴木木コウ(モーニング連載)

人権標語

人権は
みんなが
持つもの
を守るもの

編集後記

編集委員(中央検査科技術科長) 三ノ浦保彦

今年は例年になく秋のおとすれが早く喜んでます。1年で最も過ごしやすいこの季節、長く楽しめるのではと期待しつつ原稿を書いています。皆様も充実した日々をお過ごしでしょうか?

さて、この「NICE SMILE」、当初職員向けの院内誌としてスタートしましたが、それが地域医療機関の先生方や患者様に向けて情報発信する広報誌へ、更に地域医療機

関の先生方と一緒に作る「市民の皆様・患者様に向けての広報誌」として発展しています。これから目指すべき医療が、この広報誌に反映させているように思います。

これからも皆様に役立つ情報、親しみを感じていただける誌面づくりを目指し、取り組んでいきたいと思っておりますので、ご愛読宜しくお願いします。